

信州大学・飯田市共同研究 第1回研究会の報告について

1 研究目的

リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通を契機とした飯田・下伊那地域のグローバル・ブランディングの方略について、伊那谷の現在、過去、未来に通底する価値を信州大学の専門的な知見から学術的に検証し、飯田・下伊那地域の本質的な価値について明らかにすることで、地域に根ざしたブランディングの構築を進める。

2 研究テーマ

「飯田・下伊那地域の文化における本質的価値とは何か」

3 研究概要

(1) 飯田・下伊那地域の価値の抽出

地域住民の暮らしの中に根付いている特徴的な文化の本質をヒアリングや現地調査を通じて探っていく。

(2) 飯田・下伊那地域の風土と暮らしの本質を可視化

抽出した価値について文書としてとりまとめるとともに、海外にも発出できるようなパイロット版映像等の制作により可視化し、ワークショップを通じて検証する。

4 信州大学研究体制

(研究者) 林靖人副学長、中嶋聞多特任教授、菊池聡教授、勝亦達夫講師

5 第1回研究会の報告

(1) テーマ 伊那谷の民俗芸能から飯田下伊那地域の本質的価値について考える

(2) 場所 飯田市美術博物館 柳田國男館

(3) 日時 令和5年8月21日(月) 17:00～19:30

(4) 内容

①オープニング

- ・人形演舞 (百鬼ゆめひなと森田梅泉氏の笛の演奏との共演)

②共同研究の趣旨説明

- ・信州大学 中嶋聞多特任教授

③あいさつ

- ・飯田市 佐藤健市長
- ・信州大学 林靖人副学長 (web 参加)

④基調講演

- ・演題 「伊那谷の民俗芸能の特質」
- ・講師 櫻井弘人氏 (元飯田市美術博物館学芸員)
- ・講演内容 裏面に概要を添付

⑤意見交換

- ・講師 櫻井弘人氏
- ・信州大学研究分担者 中嶋聞多氏、勝亦達夫氏 (web 参加)
- ・研究協力者 レイト・エマニュエル氏 (名古屋大学)
分藤大翼氏 (信州大学) (web 参加)
石丸亜矢子氏 (一社 循環型経済研究所)
- ・飯田市 佐藤健市長

(5) 今後の予定

9月中に第2回目の研究会を開催予定 (研究者及び研究協力者と日程調整中)。

6 基調講演

(1) 講演テーマ 「伊那谷の民俗芸能の特質」 講師 櫻井弘人氏

(2) 講演内容の概要

➤ 南信州における民俗文化財の状況

- ・長野県内の国指定重要無形民俗文化財が南信州に県内 10 件中 6 件存在（うち 3 件はユネスコ無形文化遺産登録）。
- ・国選択無形民俗文化財は県内 22 件中 11 件（霜月祭り、今田及び黒田の人形芝居）存在。
- ・南信州は中世から近世初期の芸能から近世、近代に至るまでの芸能まで存在しており、**日本芸能史の縮図**である。

➤ 飯田下伊那地域における芸能の広がり

○中世から近世初期の芸能

- ・霜月神楽は中世から近世初期の神事芸能である。南信州でも南端の山間地域から東三河・北遠江にかけて数多く分布。（遠山、天龍・富山、奥三河、水窪）

○近世中期以降の芸能

- ・飯田盆地を中心に娯楽芸能が発達。芸能の地域は山間部から都市部へ。神事芸能から娯楽芸能へ変遷。
- ・江戸、京都、大坂や三河の文化が伝わる。村の祭礼で産土神への奉納芸として若者が担い手の中心となる。

➤ 芸能の質的变化

○中世から近世初期の芸能（霜月神楽など）

- ・中世から近世初期の芸能は神事色が強く、開郷に関わった家を中心。
- ・民間の宗教者等が担う年間祭祀の中に位置づく秘伝・口伝の中で継承された。

○近世以降の芸能（人形芝居、歌舞伎、獅子舞など）

- ・近世以降の芸能は娯楽色が強く若者たちが担い手となる。
- ・春祭りや秋祭りが中心で他の地域から芸能指導者を招き、先取な気質や隣村と競い合う精神が醸成された。
- ・近世の飯田下伊那は飯田藩をはじめ、いくつもの知行所に分割統治されていたため、競い合いが生まれ、進取の気質が醸成され、独自性を重視する気風が育ったのではないか。

➤ 伊那谷における民俗芸能の特質

【地理的特質】

○中世から近世初期

- ・中央構造線沿いに伸びる宗教都市（伊勢・熊野～諏訪）を結ぶ南北の街道に位置する地域だった。

○近世中期以降

- ・東西の文化の拠点（京都・大坂～名古屋～江戸）を結ぶ街道に位置する地域だった。

【伊那谷の特質として残っているもの】

- ・伊那谷は文化の十字路となり、日本の東西文化の混交・複合する地域が生まれた。
- ・西日本・畿内文化の東限となり、東日本・関東文化の西限となった。
- ・飯田下伊那地方の人々の信仰心や向上心（競争心、進取性）・向学心（知的好奇心）、知のネットワークが飯田下伊那の歴史文化を形づくるとともに、日本の近代化に名を残すような田中芳男、菱田春草、柳田國男などの偉人を育んだ。
- ・**南信州は各時代の民俗芸能が重層的に伝承される日本全国でも有数な地域。**

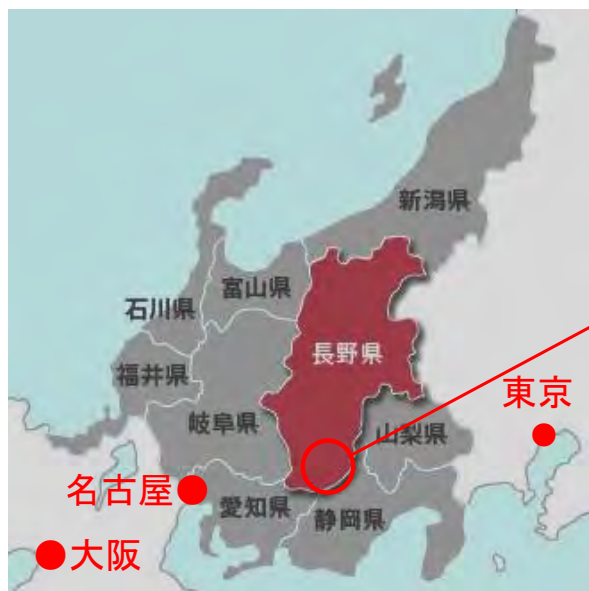
飯田・下伊那地域の特質

櫻井弘人

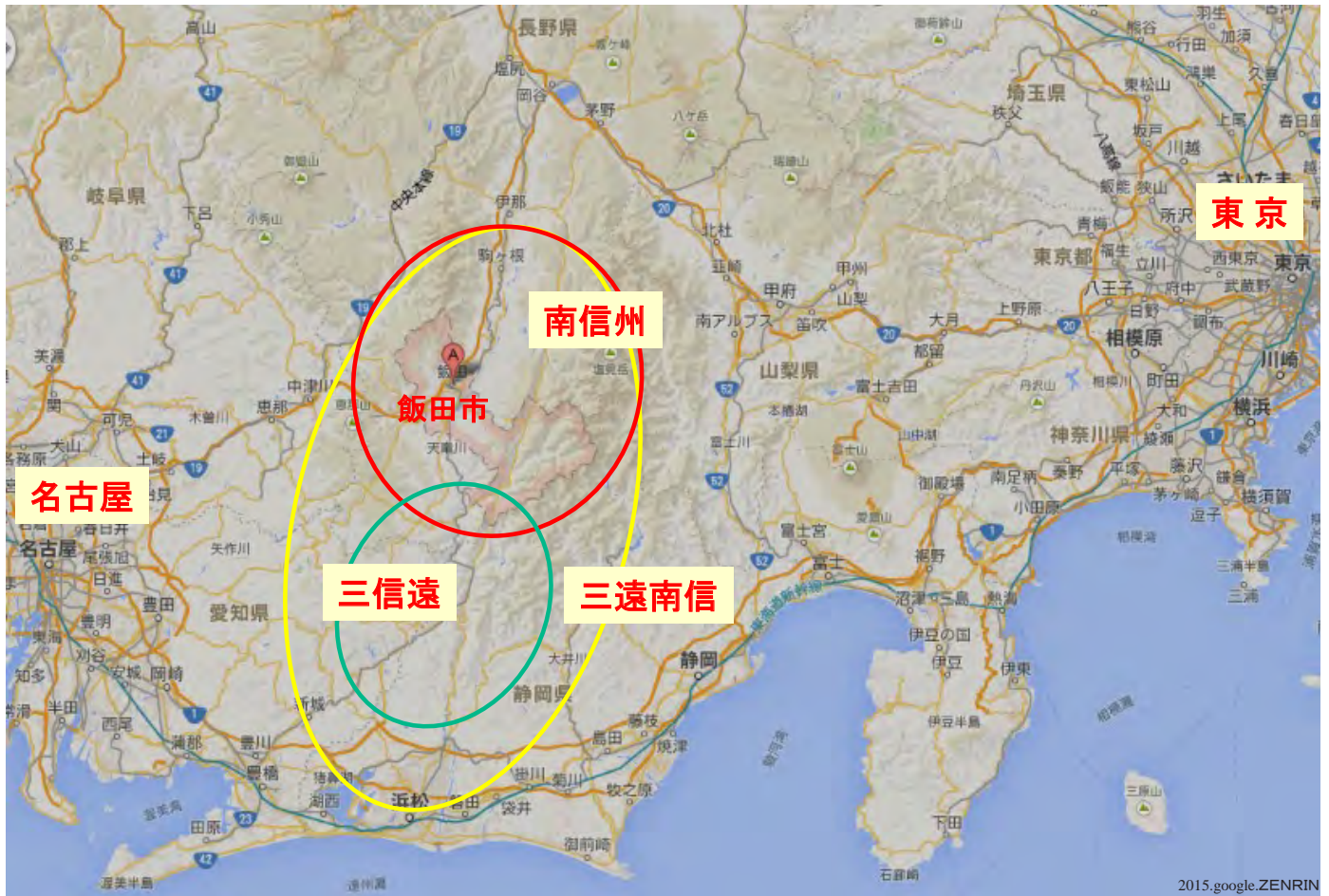
1、位置と地形

南信州（飯田・下伊那）の位置

- ・日本のほぼ中央。東西日本の中間地点



南信州と三信遠



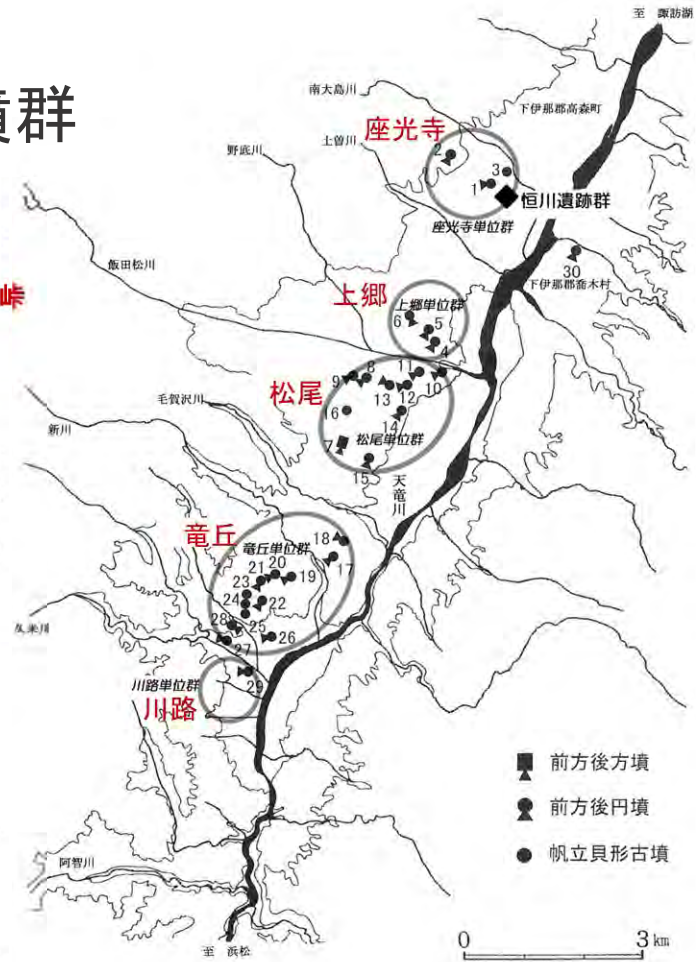
南信州(飯田下伊那)の地形

- ・南アルプスと中央アルプス、伊那山脈
- ・天竜川と中央構造線
- ・伊那谷 ほぼ南北に連なる巨大な谷。南信州は伊那谷南部



2、道と交通

1) 古東山道と飯田古墳群



2) 東山道と伊那郡衙

伊那郡衙 (恒川遺跡)

奈良・平安時代(7世紀後半~10世紀前半)にかけて伊那郡を治めた役所。一時期、伊那郡司が信濃国全体の牧を管理する職務を兼務していた。



出土した大量の陶硯



掘立柱建物(総柱)の正倉
8世紀前半

古代信濃国伊那郡・諏訪郡郷名



3) 江戸時代の街道

伊那谷の街道は五街道から外れる「脇往還」

- 三州街道(伊那街道)
- 遠州街道
- 秋葉街道



4) 飯田の位置

信濃への入口・要の位置

飯田藩主堀親昌の書状
(飯田堀家初代)
(寛文13年・1673)

岩崎長世の長歌
(幕末の国学者)

第一爰元結構なる所へ被遺候儀
当地之様子見及弥難有御厚恩と奉存候 東海道ヨリ信州之入口 飯田ヨリ信州へ之商売配分仕由ニ候左候へハかなめ之所之様ニ存候

御食むかふ飯田小国は美篤川る信濃の国のくちにありき都も近しいせ近し江戸遠からず三粟の中に在て朝には八百馬曳きいれ夕べには千馬引きいで人さはにみちてあり

三粟||京都・伊勢・江戸

5) 関所

飯田下伊那は関所・番所の多設地

= 武田氏による開設。東国への出入口にあたる要衝地であった。→ 分割統治

伊那郡の関所・番所



6) 中馬

中馬制 農民が従事した馬による物資の輸送。とくに伊那地方で発達。

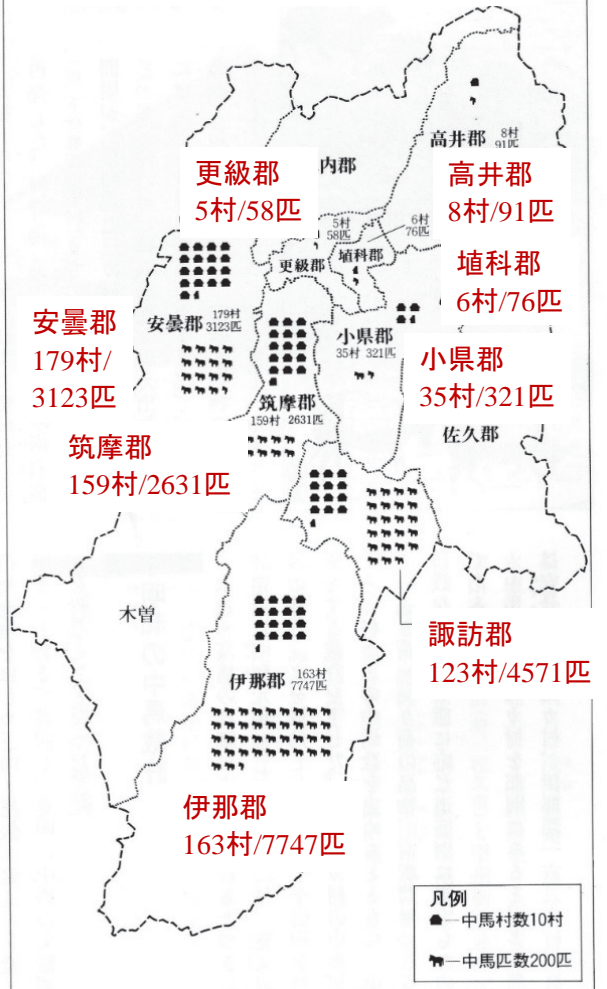
飯田 中馬によって商業的に栄えた。「出馬千匹 入馬千匹」

「朝には八百馬曳きいれ 夕べには千馬引きいで 人さばにみちてあり」
(岩崎長世)



中馬絵馬 明治3年(1870) 飯田市・育良神社蔵

明和元年(1764)の中馬裁許



7) 天龍川の水運

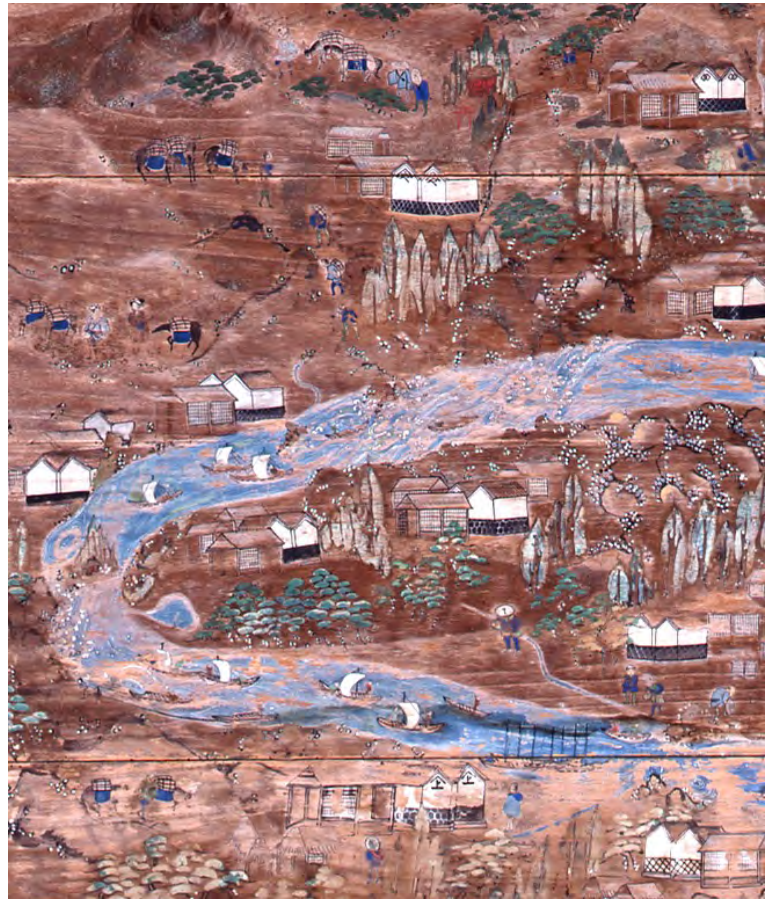
通船

下り：米・煙草・麻・大豆・柿
酒・紙 など

上り：塩・綿・茶・砂糖・楮など



天龍峡を遡上する通船



立石柿出荷通船絵馬 天保9年(1838) 飯田市・立石寺蔵

材木の搬出 筏・管流し

「伊那山」の豊富な山林資源を流送



筏

『天竜川の筏流し』1988より



樽木



天龍川の流域図 (『長野県史』)

8) 飯田線

川村カ子トの活躍

(アイヌ出身の測量士 1893-1977)

伊那電気鉄道 1923(大正12)年 辰野駅—飯田駅間 全開
1927(昭和2)年 天龍峡まで開通

三信鉄道 1937(昭和7)年 大嵐駅—小和田駅間 開通
*これにより現在の飯田線が全線開通

飯田線 1942(昭和18)年 伊那電・三信鉄道・鳳来寺鉄道・豊川鉄道など4私鉄が国鉄に移管され、飯田線となる



伊那電鉄開通を祝う花電車

9) 歴史はくり返す

1, 中央自動車道西宮線

1975(昭和50)年 中津川—駒ヶ根間開通
飯田IC開業

* 恵那山トンネル(上り線が8,650m、下り線8,490m)
は神坂峠の真下

「伊那谷の夜明け」といわれる。



2, 三遠南信自動車道

飯田市—浜松市 約100km
2025年開通予定

3, リニア中央新幹線

2027年以後開通予定



3、祭り・民俗芸能

1) 民俗文化財

長野県内の国指定重要無形民俗文化財

南信州 県内 10件中 6件

- 雪祭
- 天龍村の霜月神楽
- 遠山の霜月祭
- 雨宮の神事芸能
- 野沢温泉の道祖神祭
- 新野の盆踊 ★
- 跡部の踊り念仏 ★
- 小菅の柱松行事
- 和合の念仏踊 ★
- 大鹿歌舞伎

★ユネスコ無形文化遺産登録

長野県内の国選択無形民俗文化財

南信州 県内 22件中 11件

- 北信濃の柱松行事
- 雪祭の芸能
- 坂部の冬祭の芸能
- 雨宮の御神事の芸能
- 和合の念仏踊
- 別所温泉の岳の幟行事
- 遠山霜月祭の芸能
- 向方のお潔め祭の芸能
- 新野の盆踊
- 伊那の人形芝居(今田・黒田・早稲田)
- 駒ヶ岳神社の太々神楽
- 大河内の鹿追い行事
- 跡部の踊念仏
- 武水別神社の頭人行事
- 大鹿歌舞伎
- 高岡の小豆焼き行事
- 戸沢のねじ行事
- 下伊那のかけ踊
- 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗
- 松本のコトヨウカ習俗
- 伊那谷のコト八日行事
- 安曇平のお船祭り

長野県における国指定・選択の無形民俗文化財

◆国指定重要無形民俗文化財

地域	無形民俗文化財(民俗芸能・行事)
北信	小菅の柱松行事(飯山市) 野沢温泉の道祖神祭り(下高井郡野沢温泉村)
長野	雨宮の神事芸能(千曲市)
佐久	跡部の踊り念仏(佐久市)
上小	
松本	
木曾	
大北	
諏訪	
上伊那	
飯伊	遠山の霜月祭(飯田市南信濃・上村) 雪祭(阿南町) 新野の盆踊り(阿南町) 和合の念仏踊り(阿南町) 天龍村の霜月神楽(天龍村) 大鹿歌舞伎(大鹿村)

◆国選択無形民俗文化財(全県を除く)

地域	無形民俗文化財(民俗芸能・行事)
北信	北信濃の柱松行事(飯山市)
長野	雨宮の御神事の芸能(千曲市) 武水別神社の頭人行事(千曲市) 高岡の小豆焼き行事(長野市)
佐久	跡部の踊念仏(佐久市) 親沢の人形三番叟(小海町)
上小	別所温泉の岳の幟行事(上田市) 上田市八日堂の蘇民将来頒布習俗(上田市) 戸沢のねじ行事(上田市)
松本	松本のコトヨウカ行事(松本市) 安曇平のお船祭り(安曇野市)
木曾	駒ヶ岳神社の太々神楽(木曾郡上松町)
大北・諏訪・上伊那	なし
飯伊	伊那の人形芝居(今田・黒田・早稲田人形) 雪祭の芸能(阿南町) (飯田市・阿南町) 新野の盆踊(阿南町) 和合の念仏踊(阿南町) 遠山霜月祭の芸能(飯田市) 坂部の冬祭の芸能(天龍村) 向方のお潔め祭の芸能(天龍村) 大河内の鹿追い行事(天龍村) 下伊那のかけ踊り 大鹿歌舞伎(大鹿村) 伊那谷のコト八日行事(飯田下伊那・駒ヶ根市)

2) 風流踊のユネスコ無形文化遺産登録

昨年11月末、**和合の念仏踊り**と**新野の盆踊り**（ともに阿南町）が「風流踊」（全41件）のうちの2件として、ユネスコ無形文化遺産への登録された。

ユネスコ無形文化遺産とは

ユネスコ(国際連合教育文化機関)の

「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に登録されること。



3) 南信州は日本芸能史の縮図

中世から近世初期の芸能

霜月神楽
おこない
風流踊り
シカオイ

国指定重要無形民俗文化財
国選択無形民俗文化財

大鹿歌舞伎は 地芝居として
日本初の国指定重要無形民俗文化財

近世の芸能

人形芝居
歌舞伎
囃子
(煙火)

一部が 国選択
無形民俗文化財

近代の芸能

獅子舞(大型練り獅子)

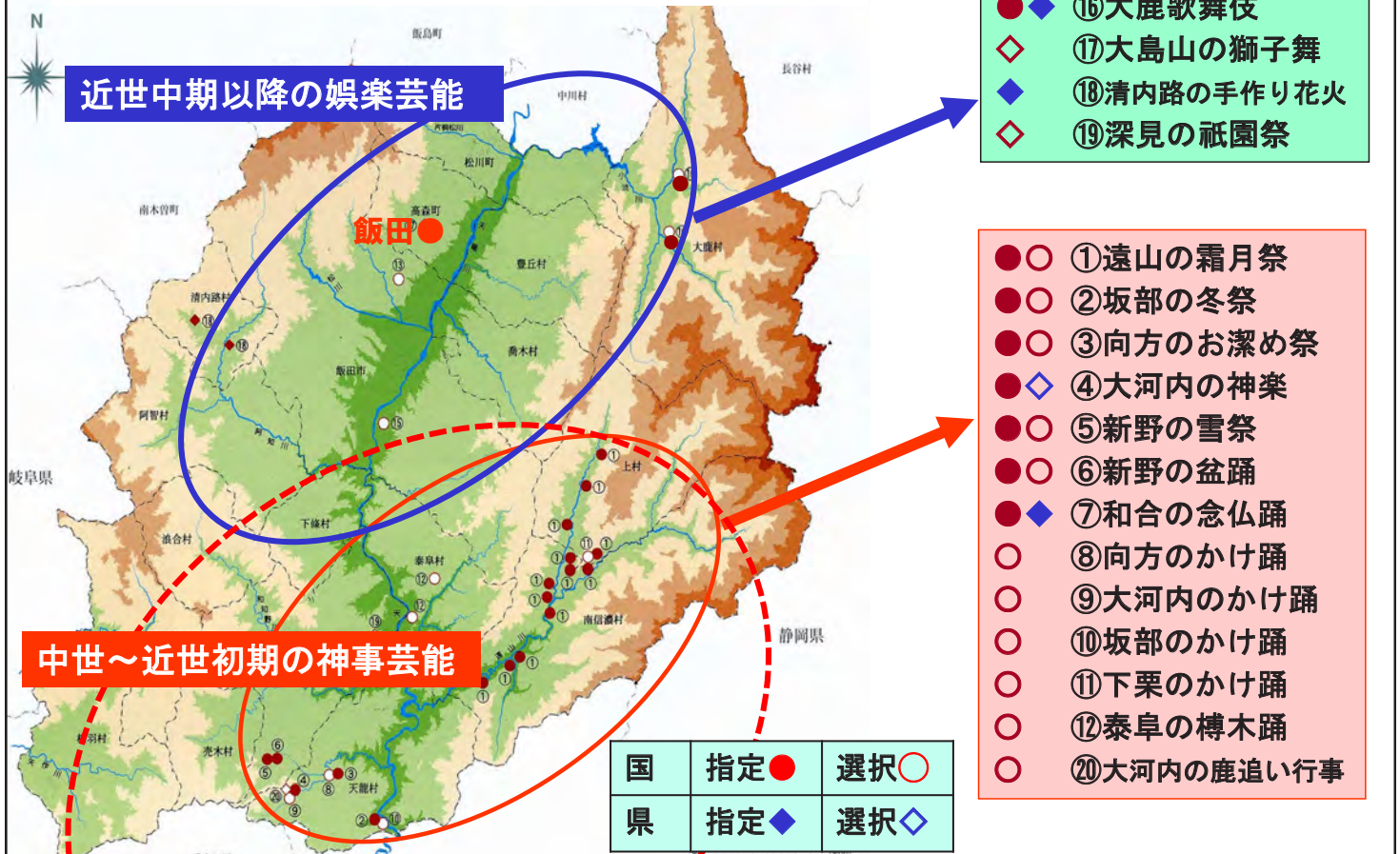
現代

飯田お練り祭り(現代版)
人形劇フェスタ
獅子舞フェスタ

各時代の民俗芸能が重層的に伝承される。南信州は日本全国でも有数な地域である。

4) 無形民俗文化財の分布

南信州における民俗芸能の分布



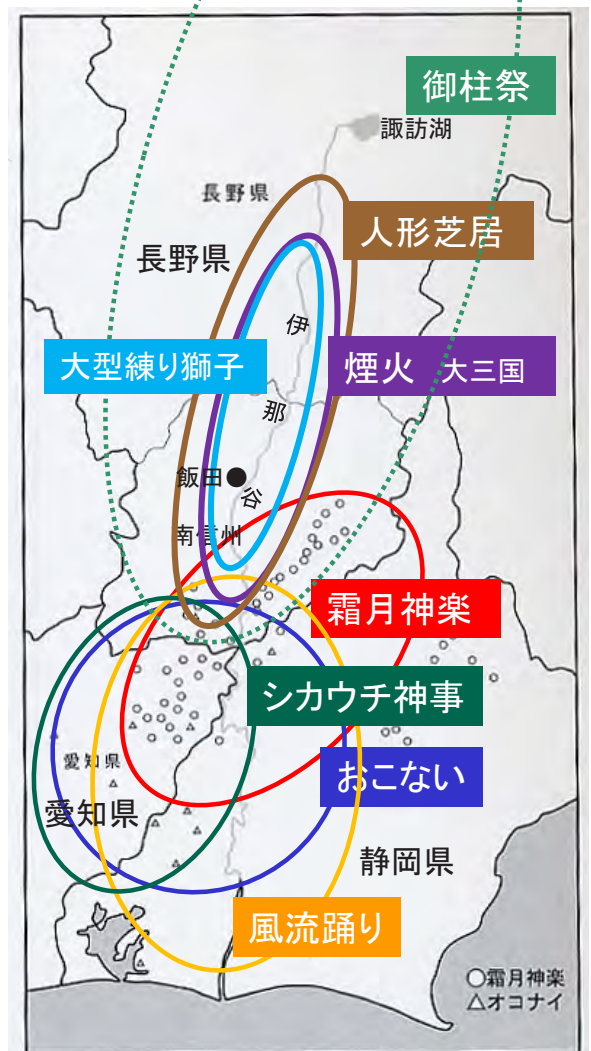
三信遠における民俗芸能の分布

近世中期以降の娯楽芸能

人形芝居
歌舞伎(地狂言)
煙火
大神楽獅子・大型練り獅子

中世～近世初期の神事芸能

霜月神楽
おこない
シカウチ神事
風流踊り



5) 中世から近世初期に さかのぼる神事芸能

南信州でも南端の山間地域から
東三河・北遠江にかけて分布。

天竜川と中央構造線が
交差する山間地域

霜月神楽
おこない
シカウチ
風流踊り



霜月神楽

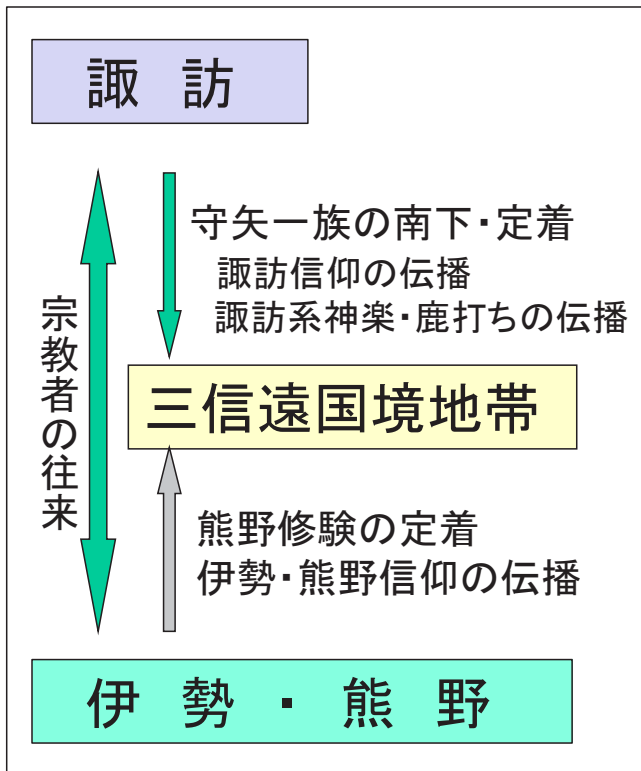
冬至における“生まれ清まり”の祭り
湯立神楽

天龍川水系における
霜月神楽の分布



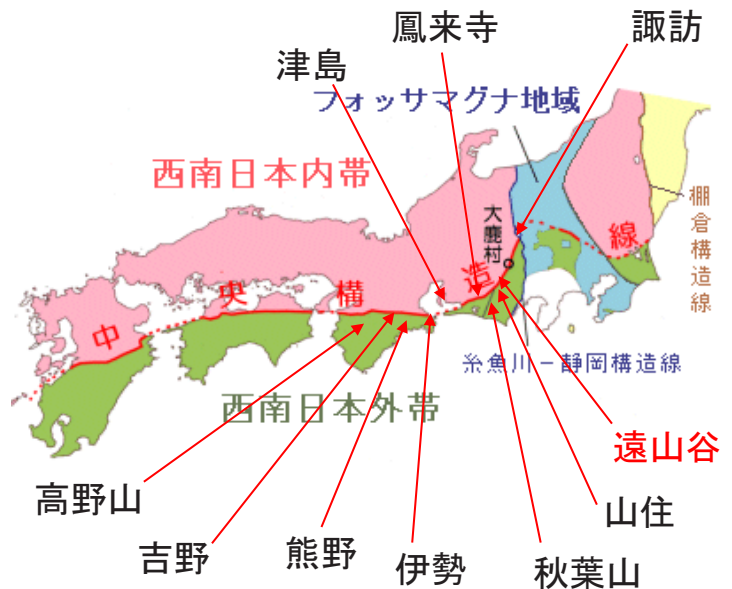
中世的芸能と中央構造線

霜月神楽の伝播に関わる私案



中央構造線は 日本最大の活断層

宗教的なメッカを結ぶ
南朝方の勢力範囲



飢饉と遠山霜月祭



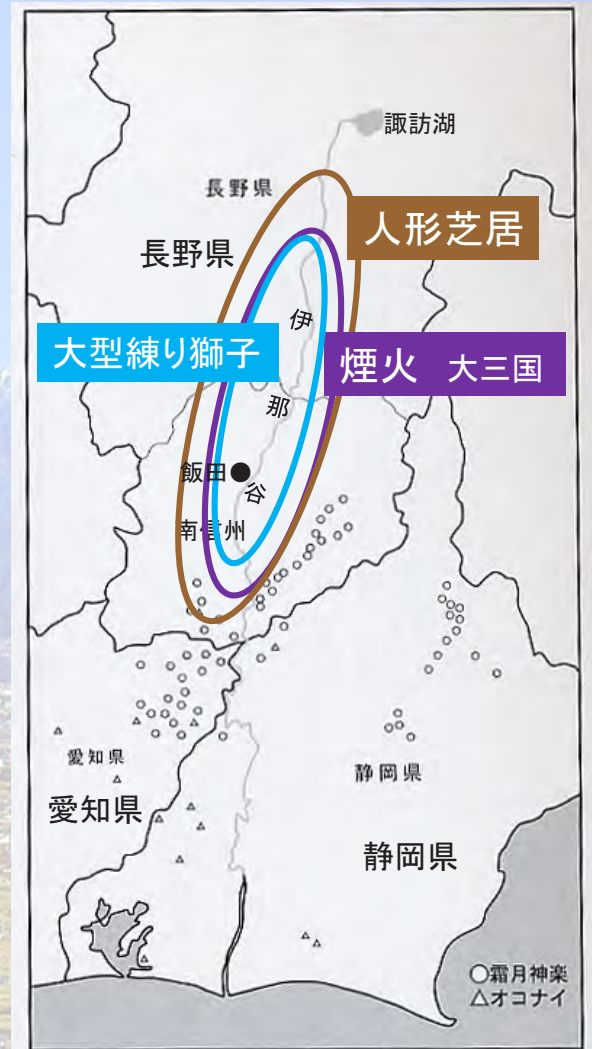
6) 近世中期以降の 娯楽芸能

飯田盆地を中心に分布

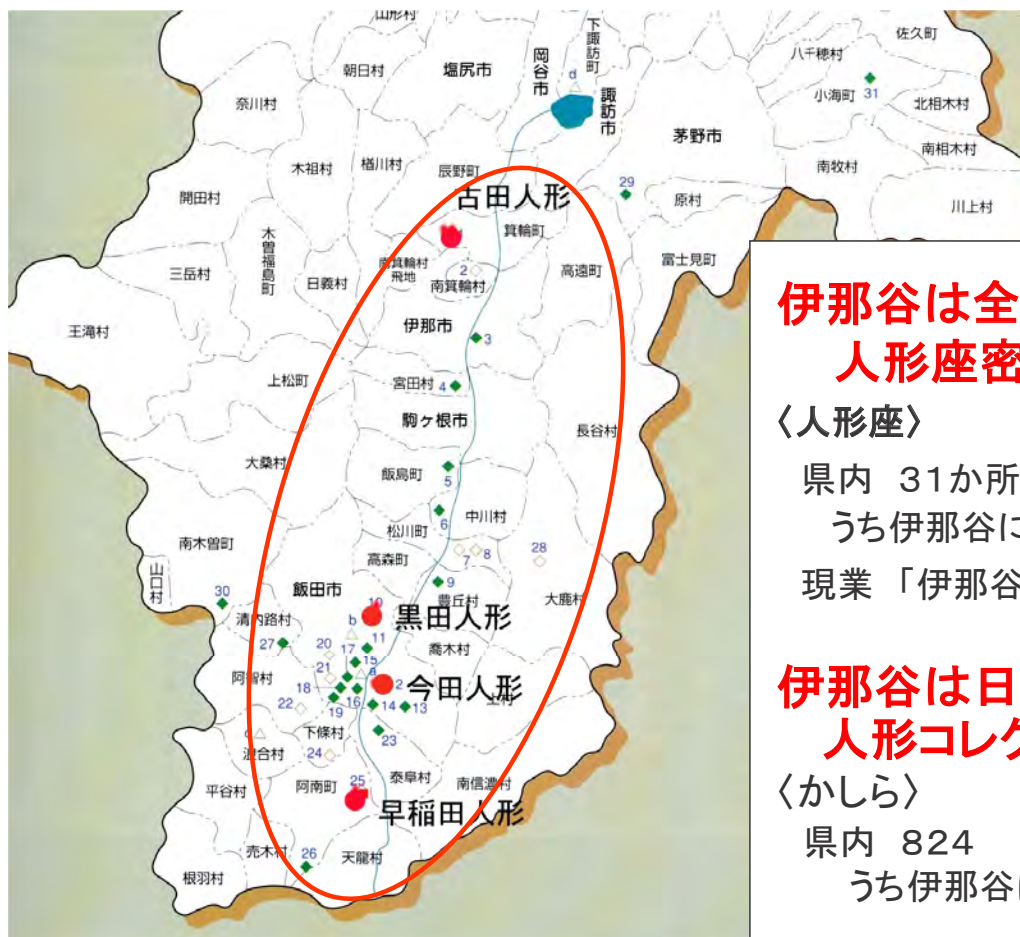
三都(江戸・京都・大坂)や三河の文化が伝わる。

村の祭礼で産土神への奉納芸として、若連中が中心となって担う。

人形芝居
歌舞伎(地狂言)
煙火
大型練り獅子舞



人形芝居



**伊那谷は全国有数の
人形座密集地**

〈人形座〉

県内 31か所

うち伊那谷に28か所

現業「伊那谷四座」

**伊那谷は日本最大の
人形コレクション**

〈かしら〉

県内 824

うち伊那谷に750

人形遣いの来峡

名古屋

幅下団兵衛
山王操芝居

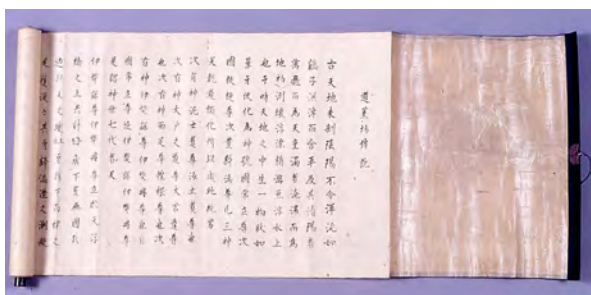
上郷・太念寺に残る
人形師匠の墓

吉田重三郎の墓
桐竹門三郎の墓
吉田亀蔵の墓



淡路

市村六三郎
市村久蔵
吉田重三郎 ●
森川千賀蔵

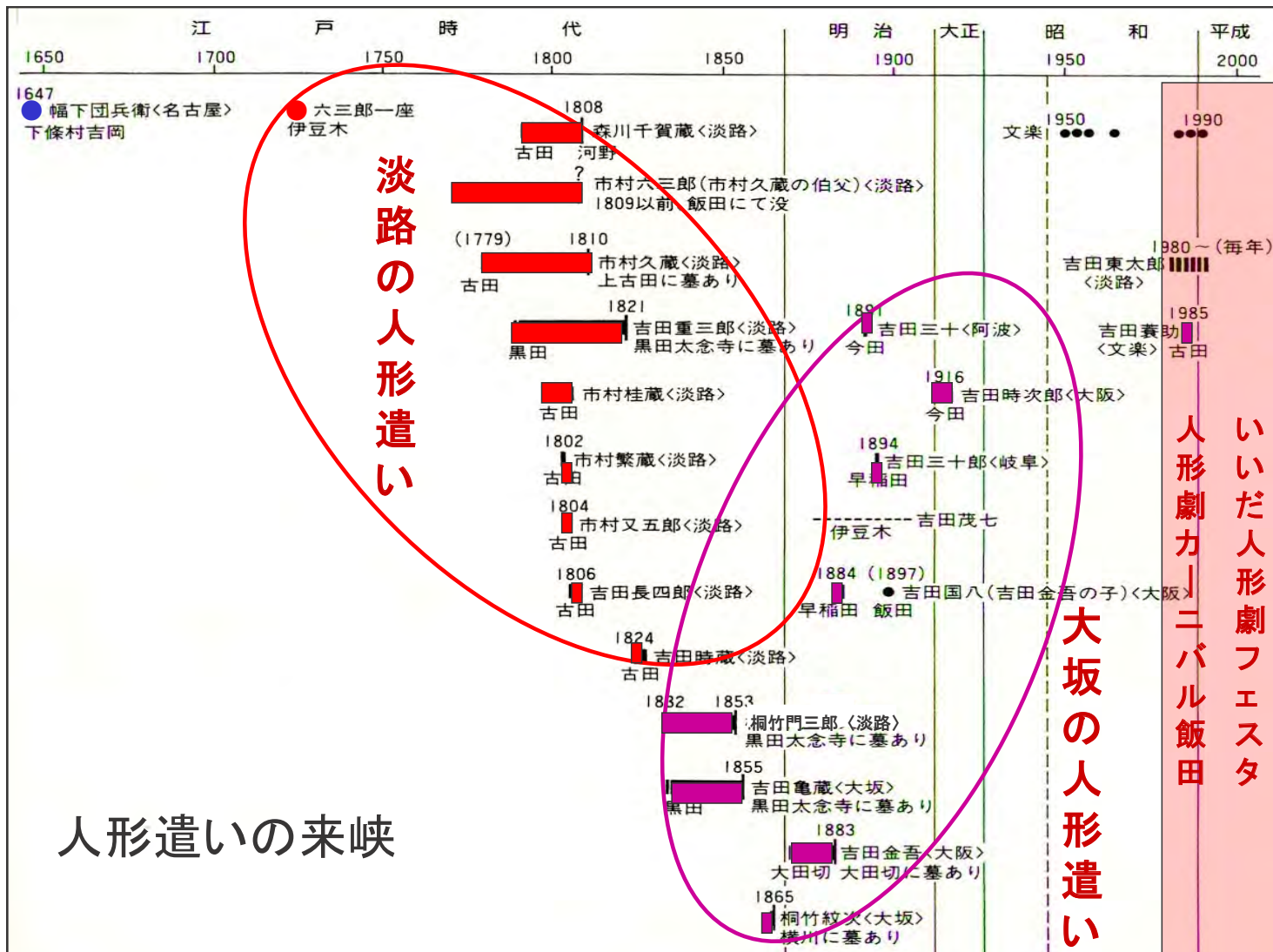


森川千賀蔵が所持してきた
金看板と道薫坊伝記



大坂

桐竹門三郎 ●
吉田亀蔵 ●
吉田金吾



人形遣いの来峡

大坂の人形遣い

いいだ人形劇フェスタ
人形劇力ニバル飯田

大坂の初演と古田人形の上演

外題		初演地		西暦(年号)		月日・座	
延善帝秘曲琵琶	大坂	古田	一七四五(延享二)	四月三日初演・明石越後掾座	一七四五(延享二)	八月祭礼	操り大当たり
楠昔噺	大坂	古田	一七四六(延享三)	正月十四日初演・竹本座	一七四六(延享三)	八月祭礼	
小夜中山鐘由来	大坂	古田	一七六六(明和三)	七月十八日初演・竹本座	一七六七(明和四)	八月祭礼	
有職鎌倉山	大坂	古田	一七八九(寛政元)	六月二十二日初演・豊竹比母座	一七九〇(寛政二)	正月吉日	
忠義墳盟約大石	大坂	古田	一七九七(寛政九)	二月二日初演・北ほり江市の側芝居	一七九七(寛政九)	八月九日祭礼	操大当たり
箱根靈験壁仇討	大坂	古田	一八〇一(享和元)	八月四日初演・京または大坂	一八〇五(文化二)	正月大吉	

中央文化に敏感な伊那谷 進んだ文化をいち早くわがものにする進取性

歌舞伎(地芝居)

現在の上演箇所： 大鹿 〈国選択→国指定〉 明和4年(1767)
 下條 享保5年(1720)
 平谷
 中尾(伊那市長谷) 明和4年(1767)頃

現存する舞台 68棟(飯田下伊那)



下條歌舞伎(下條村)



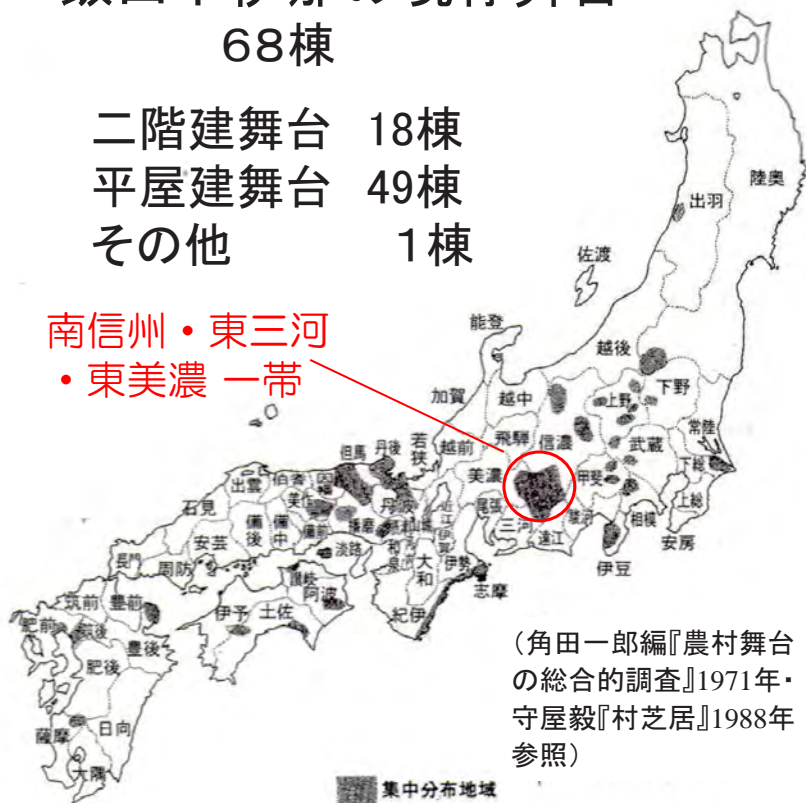
大鹿歌舞伎(大鹿村)

農村歌舞伎舞台

飯田下伊那の現存舞台 68棟

二階建舞台 18棟
平屋建舞台 49棟
その他 1棟

南信州・東三河
・東美濃 一帯



(角田一郎編『農村舞台の総合的調査』1971年・守屋毅『村芝居』1988年参照)

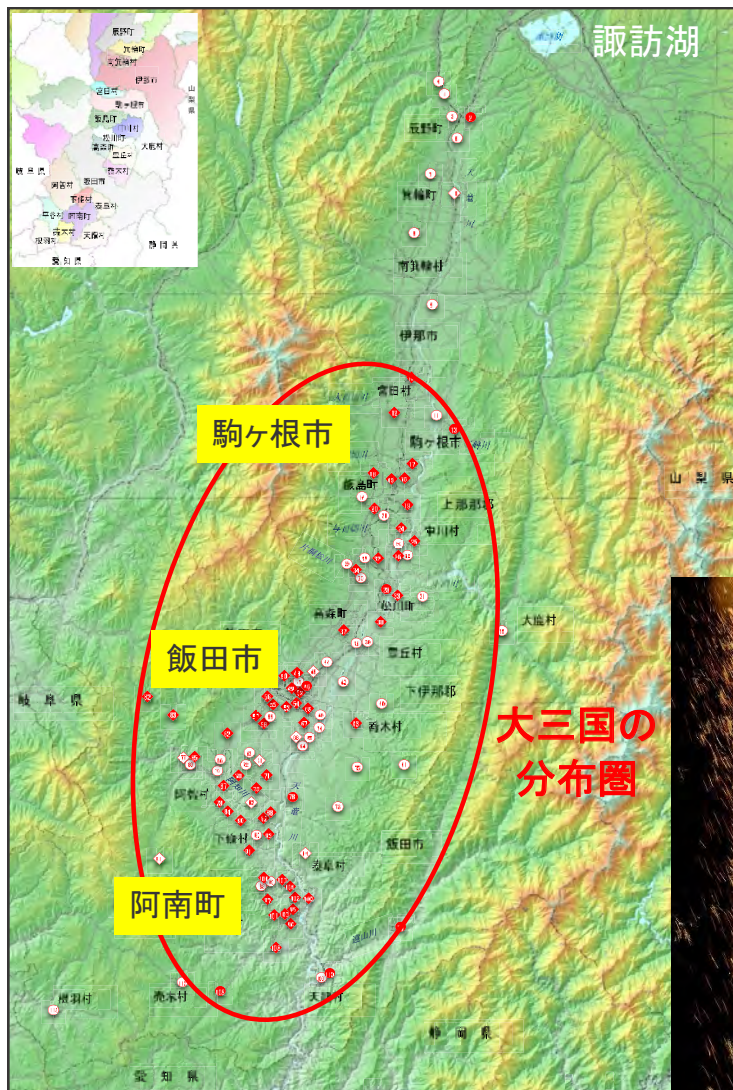
代表的な養蚕・製糸業地帯と重なりあう

農村歌舞伎舞台の都道府県別数

地方名	都道府県名	歌舞伎舞台数
東北	北海道	
	青森	
	岩手	
	宮城	
	秋田	
	山形	4
関東	福島	20
	茨城	
	栃木	
	群馬	99
	埼玉	2
	千葉	4
	東京	21
	神奈川	92
	新潟	7
	富山	
中部	石川	
	福井	
	山梨	13
	長野	202
	岐阜	184
	静岡	41
	愛知	183

	都道府県名	歌舞伎舞台数
近畿	三重	27
	滋賀	
	京都	25
	大阪	
	兵庫	234
中国	奈良	
	和歌山	7
	鳥取	7
	島根	
	岡山	100
	広島	
	山口	13
	徳島	
	香川	32
	愛媛	
四国	高知	61
	福岡	14
	佐賀	52
	長崎	
	熊本	29
九州	大分	37
	宮崎	1
	鹿児島	

合計 1512



煙火

南信州は煙火王国

三河から伝わる

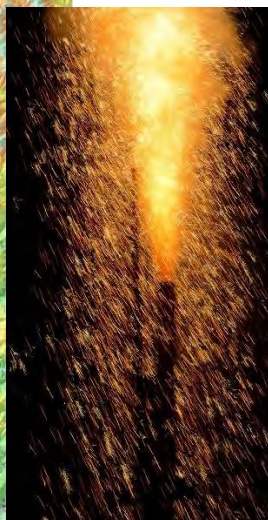
神社の祭礼の奉納煙火

手造りの伝統が生きている

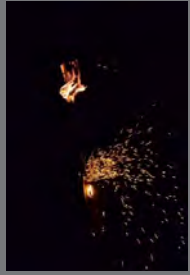
大三国 **伊那谷特有の煙火**

中心は下伊那

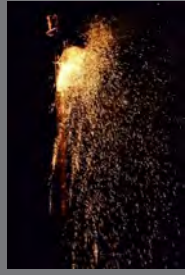
北限は大田切川



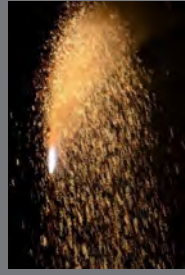
大三国の花火変化(上清内路)



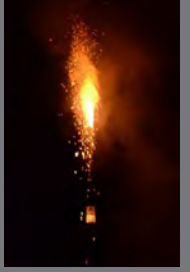
①ドヤ(一番)



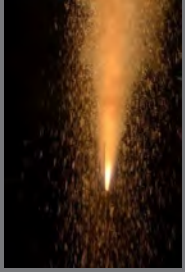
②カランセ



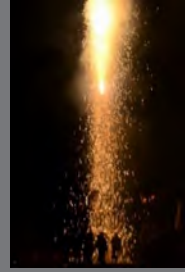
③小紅葉



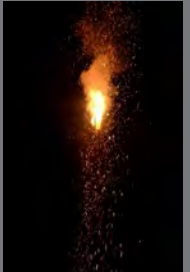
④ドヤ(二番)



⑤カランセ



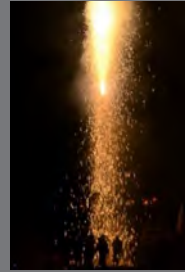
⑥中紅葉



⑦ドヤ(三番)



⑧カランセ



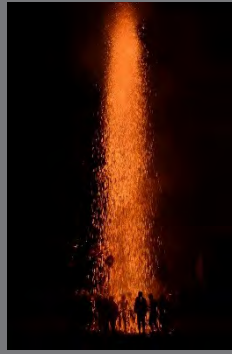
⑨小紅葉

ドヤ(一番) — カランセ — 小モミジ —

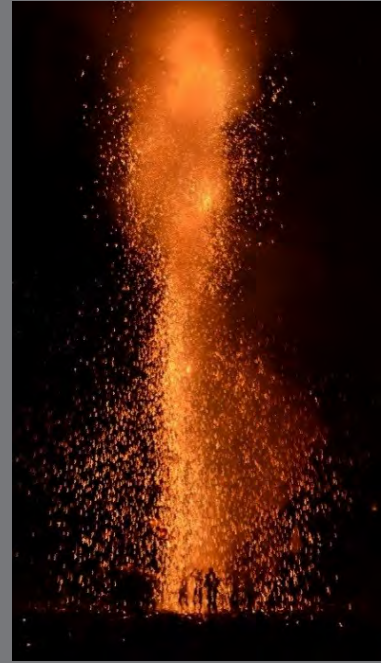
ドヤ(二番) — カランセ — 小モミジ — 中モミジ —

ドヤ(三番) — カランセ — 小モミジ — 大モミジ —

弱アゲ — 強アゲ



⑩大紅葉



⑪強アゲ

獅子舞

「獅子舞の宝庫」 — 長野県
伝承地 約550箇所

飯田下伊那の獅子舞
約80

古い大社

行道の獅子(練り獅子)

飯田盆地 「大型練り獅子」

竜西: 屋台獅子

竜東: 籠獅子

周辺部

太神楽獅子 ほか

長野県における獅子舞の分布

●: 屋台獅子 ●: 三頭獅子(三匹獅子) ●: その他

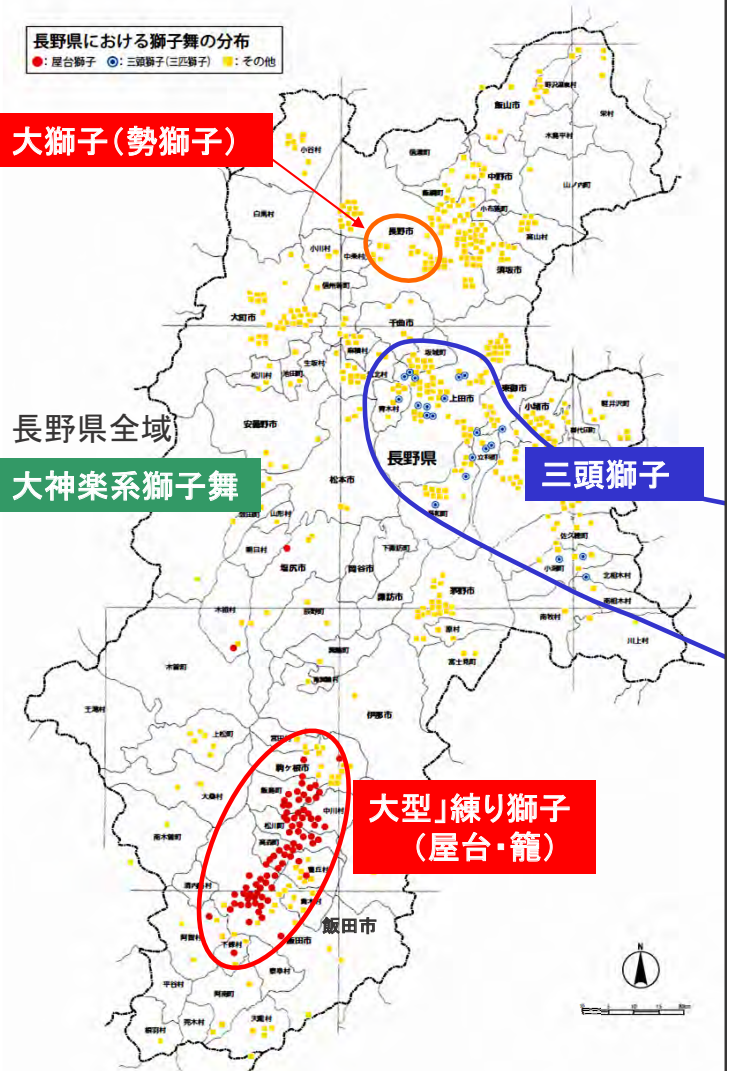
大獅子(勢獅子)

長野県全域

大神楽系獅子舞

三頭獅子

大型「練り獅子」
(屋台・籠)



伊那谷における大型獅子舞の分布

●:屋台獅子 ◆:籠獅子 ■:その他



屋台獅子

天竜川の西岸に分布



天竜川の東岸に分布

籠獅子



獅子曳きの創出 —導入と創意・工夫—

獅子曳き・守護・随行役の変化<オリジナル化>

〈仏教説話〉 宇天王(于闐王) 大島山・牛牧・東野 他

〈中国史記・故事〉 宇闐王+関羽・張飛 牛牧

〈歌舞伎・人形芝居〉 松王・梅王・桜丸(『菅原伝授手習鑑』) 座光寺・下市田
和藤内(『国性爺合戦』) 生田中山、中川上宮・大草

〈縁起・説話〉 天狗(羽場)、天狗、鬼、猿、狐、おかめ



大島山瑠璃寺の獅子舞



座光寺麻績神社の獅子舞

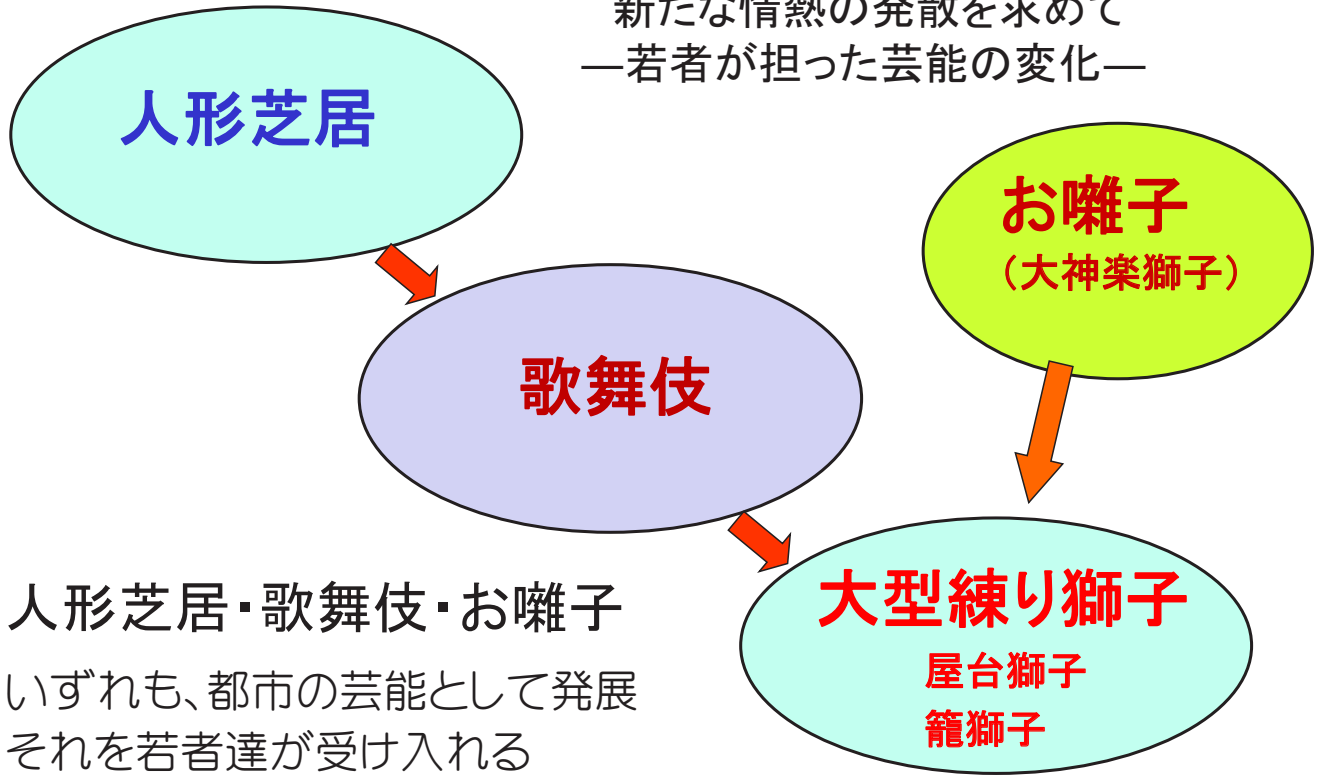


羽場の獅子舞

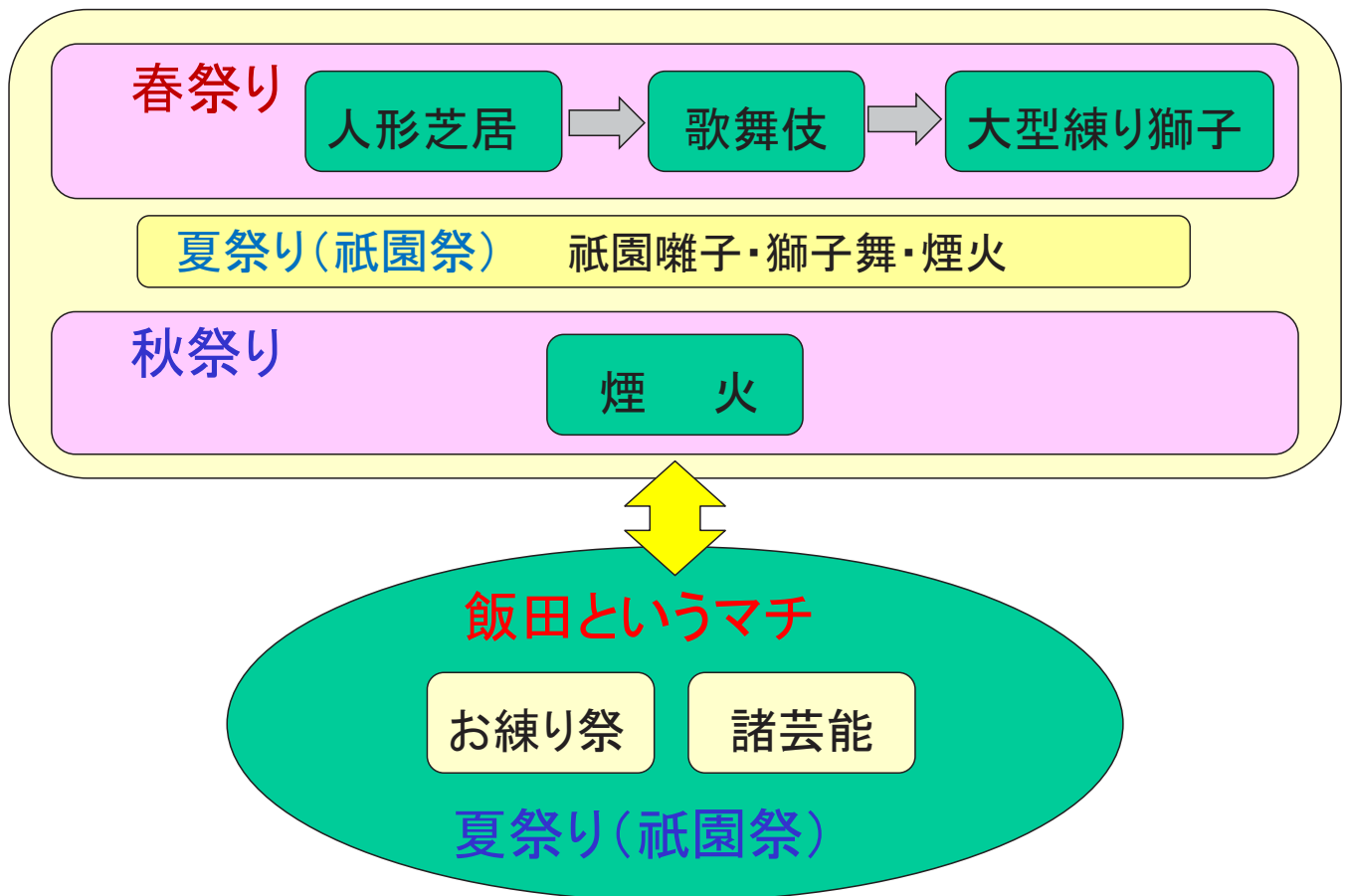
近世以降の民俗芸能の移り変わり

近世以降の芸能と人びと

新たな情熱の発散を求めて
—若者が担った芸能の変化—



近世的な芸能が残る地域のモデル



分割統治された 近世の飯田下伊那

所領変遷図

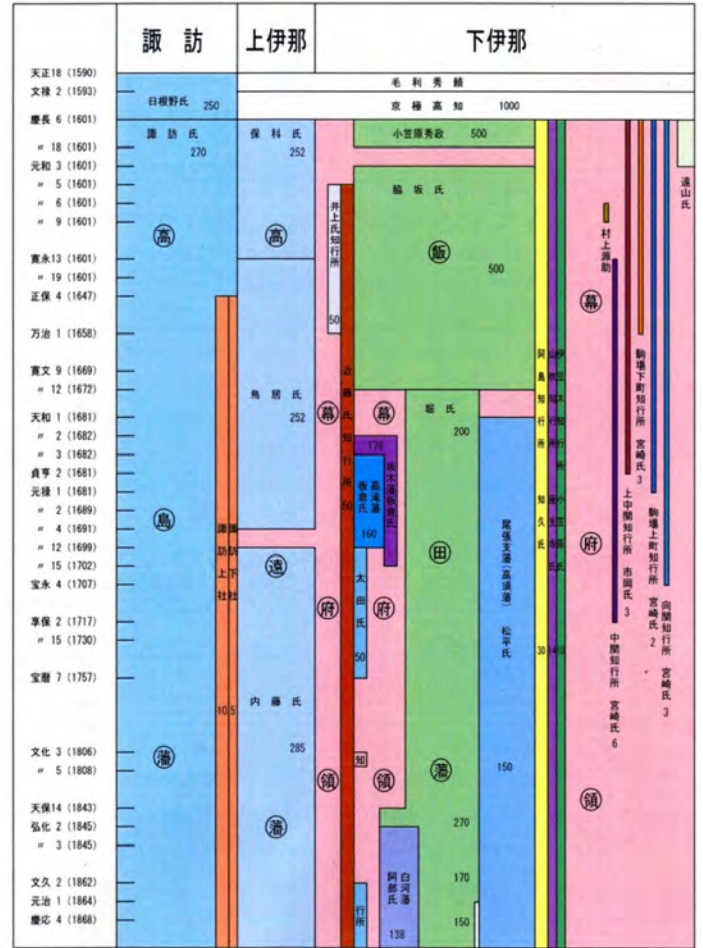
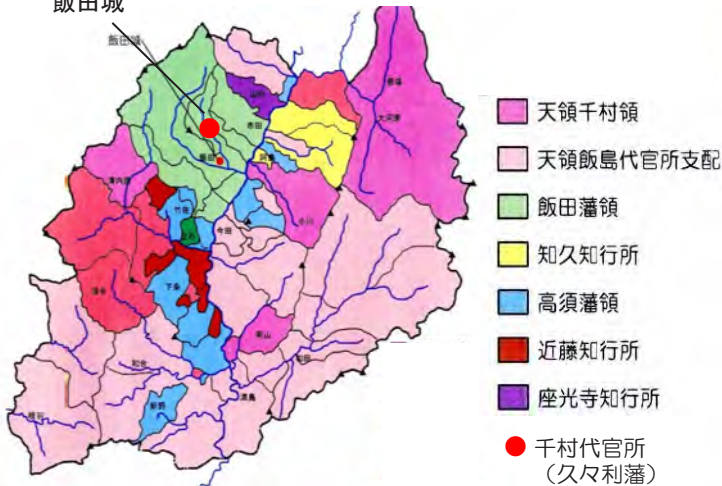
自立した地域

各地の情報が集まる

所領を越えた交流が生まれる

競いあい → 進取の気質が醸成され、
他者への追従でなく、独自性を重視
する気風が育つ。

飯田城



中世的な芸能から近世的な芸能へ

中世～近世初期の芸能

神事色が強い
開郷に関わった家が中心
民間の宗教者等が担う
年間祭祀の中に位置づく
秘伝・口伝の中で継承
宗教者による意味づけ

近世以降の芸能

娯楽色が強い
若連中が担う
春祭り・秋祭りが中心
他地から芸能指導者を招く
先取な気質・隣村と競いあう

江戸時代中期
(元禄年間頃か)

社会組織のあり
方そのものが大
きく転換

中世的芸能もしだいに変化する

7) 伊那谷(南信州)は、なぜ「民俗芸能の宝庫」か

〈中世～近世初期〉 伊勢・熊野 ← 伊那谷 → 諏訪

〈近世中期以降〉 京都・大坂・名古屋 ← 伊那谷・飯田 → 江戸



8) 伊那谷は東西文化の混交・複合地帯

太田切川の北と南の民俗
(民俗学者向山雅重の分析)



小川直之「遠山の民俗を考える」
(遠山常民大学第3期特別講座2023.07.16講演資料)

草刈鎌

以北 振り刈り用草刈鎌
以南 つかみ刈り用

雑煮の餅

以北 関東風(焼き餅)
以南 関西風(生餅)

民家の間取り

以北 関東風
以南 京間

方言

太田切川と分杭峠をつないだ線が方言境界線

気質

「南の方が新しいものを摂取する意欲が強く」「北の伊那方面は、少しく古さを守る」

4. 人物

1) 偉人

飯田下伊那は数多くの偉人を輩出

田中芳男没後100年にあたる平成28年に飯田市美術博物館で開催した特別展では、下記の9名をはじめ計42人の人物を取り上げた。

- 田中芳男** 日本の博物館・博覧会の父
- 菱田春草** 近代日本画の創始者
- 柳田國男** 日本民俗学の創始者(兵庫県出身)
- 河竹繁俊** 日本演劇学の巨匠
- 潮田千勢子** 女性救済に尽くした社会福祉家
- 日夏耿之介** 異彩を放った象徴派詩人
- 今村力三郎** 国家権力に立ち向かった弁護士
- 市村咸人** 南信州の実証的歴史研究の巨人
- 西尾 實** 国立国語研究所の初代所長

平成28年 10月1日(土)〜11月27日(日)

主催：飯田市美術博物館
 問題時間：9:30〜17:00(入館料16:30まで)
 観覧料：一般3,000円、中学生2,000円、小学生1,000円、幼児500円

後援：下伊那教育会・伊那史学会

協賛：飯田市立中央図書館、飯田市立中央公民館、飯田市立中央児童館、飯田市立中央老人福祉センター、飯田市立中央生涯学習センター

飯田市美術博物館 TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 http://www.iida-museum.org/

田中芳男没後100年記念特別展
 田中芳男と南信州の偉人たち

日本の近代化に挑んだ人びと

2) 寺子屋教育

今村光利「南信州の偉人群像とその起源」
 (『日本の近代化に挑んだ人びと』
 飯田市美術博物館 2016)

身分・職業別 師匠数(1625~1904年)

身分職業 郡	農	僧侶	神官	修験	士	浪人	医者	職人	商人	不詳	計
水内	493	199	67	13	23	3	54	5	9	19	885
高井	278	138	27	9	22	1	45	3	6	9	538
更級	302	178	34	43	26	6	31	1	4	1	626
更科	117	60	21	19	106	3	27		1	7	361
小県	263	100	30	1	41	1	21		1	1	459
佐久	209	40	25	5	24	3	14		2	12	334
諏訪	227	44	13	9	125	3	46	1	4	7	479
伊那	746	140	48	26	73	19	94	5	6	67	1,224
筑摩	459	52	53	10	63	5	32		1	23	698
安曇	363	62	23	6	29	10	19		3	44	559
計	3,457	1,013	341	141	532	54	383	15	37	190	6,163
割合(%)	56	16	6	2	9	1	6	0.2	0.6	3	100

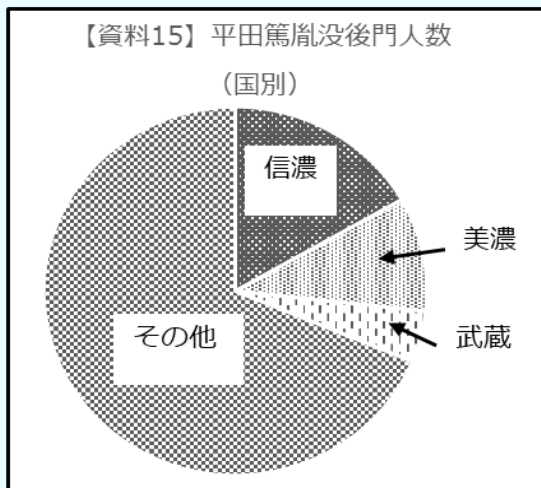
(注)『長野県教育史』第1巻総説編1による。

「伊那」は、南信州ほか高遠藩を含む

3) 国学

伊那地方は平田篤胤没後門人が
全国一多い。

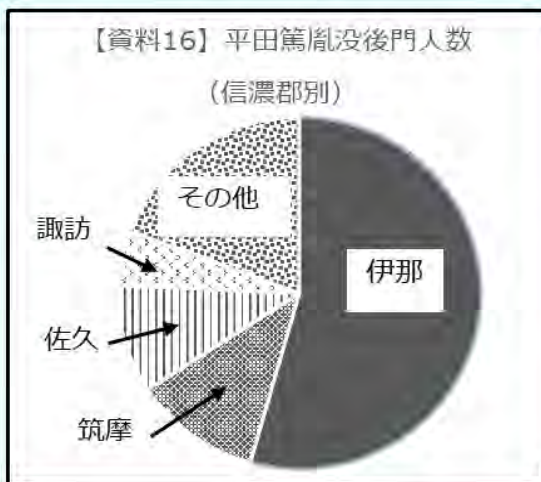
明治維新を迎えて平田国学が



松尾多勢子



北原稲雄



青木隆幸氏集計図

4) 郷土研究

郷土雑誌『伊那』 昭和13～19年、昭和27～令和3年「伊那史学会」
令和4年～ 新生「伊那史学会」

「伊那史学会」が郷土の歴史・民俗・自然などの調査研究成果
を掲載する月刊誌。最大5000部を発行。



伊那同人(昭和31年1月11日)

5) りんご並木

飯田大火(昭和22年4月20日)の復興に
寄せた飯田東中学校生徒の願い
「りんごの実が輝く美しいまちに」



おわりに

東西日本の中間に位置する「文化の回廊」——伊那谷
そこで培われた飯田・下伊那地方の人びとの
信仰心・向上心(競争心・進取性)・向学心(知的好奇心)
そして知のネットワークが
飯田・下伊那の歴史文化を形づくってきた。

「日本のほぼ中央に位置する、信州・伊那谷は、日本のみえる
原風土である。

古代から現代にいたる、この谷に刻まれた史譜を眺めていると、
その時々日本の歴史の鼓動が、東と西から、さらに南と北から
伝わり、吹きだまり、そして新しい芽を出し、この谷の貌を形成し、
営まれ伝えられてきたことを知らされているのである。」

後藤総一郎『神のかよい路 天竜水系の世界観』(淡交社 1990)